全国漁業信用基金協会　東京支所



1　東京都の紹介

東京都は、日本の政治・経済・文化の中心として発展し、世界有数の大都市圏を形成しています。都心には高層ビル群が立ち並び、国内外から多様な人々が集まり、昼夜を問わず活気に満ちています。国内総人口の約１割、1,400万人が集中する巨大都市です。

しかし、東京都の魅力は都市機能だけではありません。多摩地域や伊豆諸島・小笠原諸島の島しょ地域には、豊かな自然が残されています。島しょ地域へのアクセスは、定期客船や航空機などがあり、24時間の船旅を楽しめる場所もあります。島との出会いは、非日常を体験することができる貴重なひと時です。

また、一般の人が住むことができない、沖ノ鳥島や南鳥島など、国境離島も東京都です。

島しょ地域は「時がゆっくりと流れる癒し空間」として、評価され、火山島の雄大な地形、透明度の高い海、固有種の生態系など、世界的にも価値の高い自然環境が広がっています。



東京都心



神津島　多幸湾

2　東京都の漁業

大都市のイメージが強い東京都ですが、実は多様な漁業が営まれ、3つに区分されます。

（１）島しょ地域（伊豆諸島・小笠原諸島）
（２）東京内湾
（３）多摩川などの河川

島しょ地域は東京都の漁業生産の中心であり、20トン未満の小型漁船による1～2名の日帰り操業が大半を占めています。伊豆諸島ではキンメダイなどの底魚一本釣り漁業、マグロやカツオの曳縄漁業、小笠原諸島ではメカジキやソデイカの縦縄漁業、ハマダイやハタ類などの底魚一本釣り漁業が行われています。東京内湾ではアサリ、スズキ、アナゴなど「江戸前」の魚介類を都民に提供しています。多摩川や江戸川では、シジミやアユ、ウナギが、多摩地域では、イワナ、ヤマメ、ニジマスに加え、東京都が開発した「奥多摩やまめ」が養殖されています。

一方、漁業者を取り巻く環境は厳しさを増し、以下の課題が顕在化しています。

（１）資源管理や海洋環境の変化への対応
（２）人材の確保・育成とデジタル技術の活用
（３）食育活動の充実など多面的機能の発揮
（４）燃油・資材等の高騰対策

島へのご案内

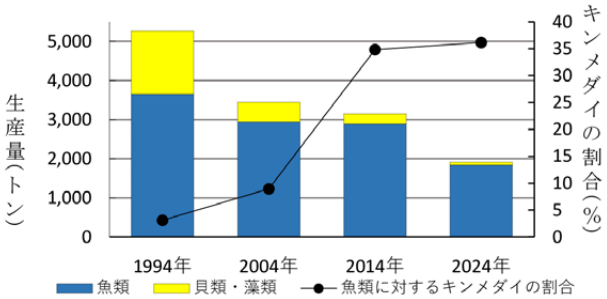
出展：(公財) 島しょ振興公社

国境離島

出展：東京都

水産業振興プラン

出展：東京都



キンメダイへの偏りと貝類・藻類の激減
島しょ地域の漁業生産量

漁業者をはじめ関係者は、こうした課題に対応していくため、東京都が2021年6月に策定した「水産業振興プラン」の下、東京の水産業を持続可能で競争力のある産業への転換していくために、日々努力しています。

3 東京支所の概要

東京支所は、港区に事務所を構え、レインボーブリッジを望む立地にあります。広域を対象とする支所として、漁業者・漁協だけでなく、東京都、町村、関係団体との連携が重要であり、行政・金融・漁業のハブとして機能しています。

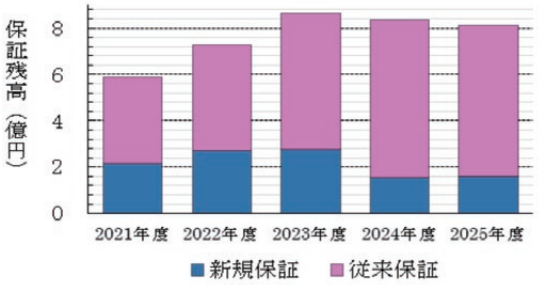
- 所　在　地：東京都港区港南四丁目７番８号
- 電　話　番　号：03-3458-2431
- E - M A I L：tokyo@zengyoki.or.jp
- 全国協会理事：岩田光正
- 会　員　数：34会員
- 出資金総額：363,700千円（'26.3.31現在）
- 債務保証残高：814,064千円（'26.3.31現在）
- 職　員　数：3名



東京支所
（都漁連水産会館３Ｆ）



支所のみなさん
（支所長 岩田理事 執行役員 会計主任）



近年の保証残高は8億円程度で『安定』
保証残高の推移



4 東京支所の取り組み

東京都の漁業は、海洋環境の変化、就業者の高齢化、資材価格の高騰など、全国と同様の課題を抱えています。さらに、生産地の大部分が離島である東京ならではの特性が存在します。こうした状況の中、東京支所では、中期目標・計画（2026～29）に基づき、以下の取り組みを進めています。

■中期目標

漁業者・漁協の円滑な資金調達に対応できるよう、引き続き一定の収益確保に努め、2029年度決算の目標は「収支均衡」としています。

■具体的な取組

○系統団体や東京都、町村との連携強化
○保証委託者の発掘と事業等の積極的なPR
○漁海況情報収集と期中管理による事故防止
○金融環境変化に対応した財務収支の向上
○効率的、効果的な業務を運営

東京支所は、都市部の強みを活かしつつ、漁業者を支える金融インフラの一つとして、今後も東京都の漁業振興に寄与していきます。



～ Menu ～　島の食材 盛りだくさん
・キンメダイの煮つけ・地魚の刺身盛り合わせ・くさや
・明日葉の和え物・パッションフルーツ

漁師民宿のご馳走　※イメージ